

医療安全教育セミナー2012 春季

(日本語社会人教育プログラム)

リスクコミュニケーションの実習 (第4回)

テキスト

期 間: 2012年4月7日(土)~8日(日)

会 場:

東京大学伊藤国際学術研究センターB2 (謝恩ホール・多目的スペース)
〒177-0033 東京都文京区本郷7-3-1



主 催:

国際予防医学リスクマネジメント連盟

担当事務局

国際予防医学リスクマネジメント連盟本部

〒113-0033 東京都文京区本郷4-7-12-102

(電子メール) urmpm.offrice@gmail.com

(Tel/Fax) 03-3817-6770

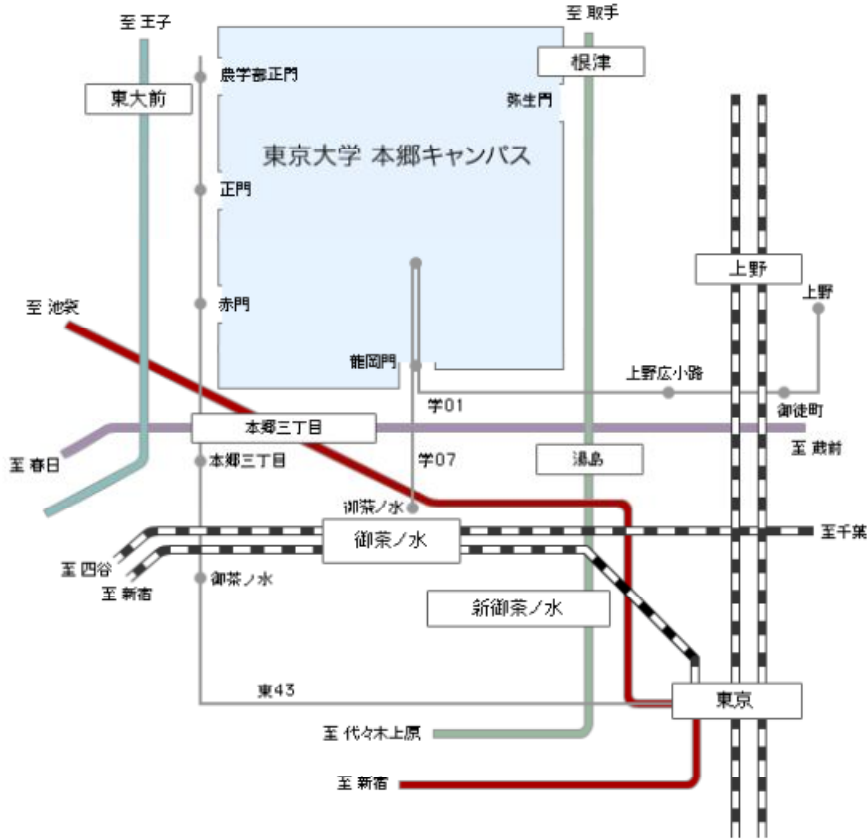
(参加者への注意)

- 1) 会場受付の開始時間 2012年4月7日(日)午前8時30分
- 2) テキストおよび領収書は2012年4月7日朝の会場受付でお取りください。
- 3) 受講修了証は4月8日午後4時以降に受付でお渡しします。
- 4) 試験は実施されません。
- 5) 多数の参加者に対する教育プログラムのため、カメラ撮影・ビデオ撮影は他の参加者の迷惑になりますので遠慮ください。

(対象者) 学会員、医療施設経営者、医療安全管理者、リスクマネージャー、医薬品安全管理者、医療機器安全管理者、医師、歯科医師、看護師、薬剤師、臨床工学技士、放射線技師、臨床検査技師、法関係者、医療事務関係者、医療産業界関係者、学生、その他

本プログラムは、病院の安全対策として診療報酬を申請することができる「医療安全管理者・専従リスクマネージャーを対象とする安全教育プログラム」ではありません。

交通案内



最寄り駅	所要時間
本郷三丁目駅(地下鉄丸の内線)	徒歩 8 分
本郷三丁目駅(地下鉄大江戸線)	徒歩 6 分
湯島駅又は根津駅(地下鉄千代田線)	徒歩 8 分
東大前駅(地下鉄南北線)	徒歩 1 分
春日駅(地下鉄三田線)	徒歩 10 分

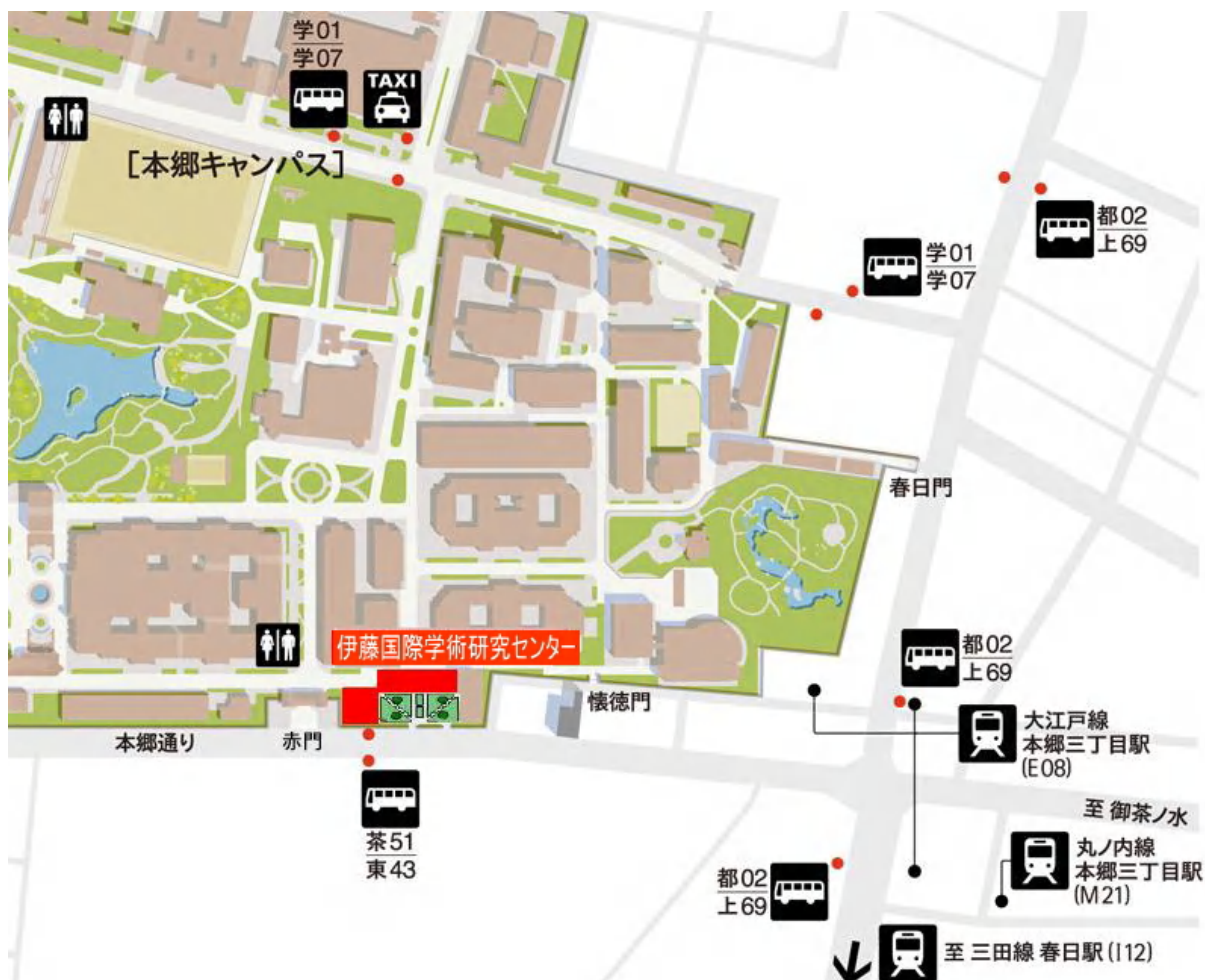
御茶ノ水駅 (JR 中央線、総武線)	地下鉄利用	丸の内線(池袋行) — 本郷三丁目駅下車
	地下鉄利用	千代田線(取手方面行) — 湯島駅又は根津駅下車
	都バス利用	茶 51 駒込駅南口又は東 43 荒川土手操車所前行 東大(赤門前、正門前、農学部前バス停)下車
	学バス利用	学 07 東大構内行 — 東大(龍岡門、病院前、構内バス停)下車
御徒町駅 (JR 山手線等)	都バス利用	都 02 大塚駅前又は上 69 小滝橋車庫前行 — 本郷三丁目駅下車
		都 02 大塚駅前又は上 69 小滝橋車庫前行 — 湯島四丁目下車
上野駅 (JR 山手線等)	学バス利用	学 01 東大構内行 — 東大(龍岡門、病院前、構内バス停)下車

会場案内

TEL 03-3812-2111(代表)

東京大学伊藤国際学術研究センター・地下2階
謝恩ホール・多目的スペース

東大赤門隣り



飲食について

講演会場内での飲食は一切禁止されています。
飲食店は下記をお勧めします。

東大安田講堂地下食堂

東大正門～本郷三丁目交差点付近に多数の飲食店があります。



プログラム

2012年4月7日(日) 午前9時30分～午後5時
医療安全とコミュニケーション)

受付開始 午前8時30分
午前9時30分 開 会

午前9時30分～午前9時40分 全体ガイダンス

午前9時40分～午前12時 講義
(座長) 上別府圭子 東京大学大学院医学系研究科家族看護学准教授

「医療安全とコミュニケーション」
荒木 登茂子 (九州大学大学院医療経営・管理学講座 医療コミュニケーション分野教授)

(概要) 医療現場におけるリスクの根本原因の一つにコミュニケーションの問題がある。医療者間、医療者・患者・患者家族間の不十分なコミュニケーションは患者の心身両面でのリスクを増大させる。不十分なコミュニケーションの背景とそれに対する対策について学ぶ。

午前12時～午後1時 昼食

午後1時～午後5時 実習
「コミュニケーションのギャップが発生する状況のアセスメントとアサーショントレーニング」

指導担当: 荒木 登茂子 (九州大学大学院医療経営・管理学講座 医療コミュニケーション分野教授)

(概要) コミュニケーションの問題があったと考えられる医療現場でのリスク場面をとりあげ、リスクを改善するためのコミュニケーションの具体的な改善点を検討する。今回は、小グループでの実技を通して、コミュニケーションのスキルアップを図る。

2012年4月8日(日) 午前10時～午後4時
(医療におけるコーチングの活用 — 患者中心のチーム医療に向けて)

受付開始 午前9時30分

午前10時～午前12時 **講演**
「医療コーチングの基本知識」
出江 紳一 (東北大学大学院医工学研究科リハビリテーション医工学分野教授)

(概要) コーチングは相手の自発的行動を促進し目標達成を支援するコミュニケーションです。医療分野では、医療面接、研修医指導、チーム医療などに活用されています。本講演では、私達が行ってきた研究を中心にこれまでのエビデンスを概説するとともに、病院での実践事例を紹介し、今後の課題と展望を述べます。

午前12時～午後1時 昼食

午後1時～午後4時 **実習 「患者中心のチーム医療のための医療コーチング技術トレーニング」**
指導担当: 出江 紳一 (東北大学大学院医工学研究科リハビリテーション医工学分野教授)

1. コーチングの基本
 - 1) コーチングの原則 (双方向、個別対応、継続)
 - 2) 聞く
 - 3) 承認する
 - 4) 質問を作る
2. コミュニケーションスタイルのタイプ分け —個別対応型コミュニケーション—
3. コーチングフロー
4. 実践 メディカル・コーチング エクササイズ
 - 現場を想定したロールプレーイング
 - 現場での課題の共有

午後4時30分 閉会

医療安全教育セミナー2011年春季 テキスト

発行日: 2012年4月1日

発行人: 酒井 亮二

発行所: 国際予防医学リスクマネジメント連盟

〒113-0033東京都文京区本郷4-7-12-102

TEL/FAX 03-3817-6770

電子メール usrmpm.office@gmail.com

ホームページ <http://www.usrmpm.org/J/>

印刷所: 第一資料印刷株式会社

〒162-0818 東京都新宿区築地町8-7